平成26年度5月1日（木）朝日新聞 夕刊

小倉祇園 18世紀の鼓動

「最古の太鼓」民家で発見

北九州市小倉北区の住宅で、234年前の江戸時代に作られたとみられる古い太鼓が見つかった。1780年製を示す文字が太鼓の内側にあり、400年近く前から続く「小倉祇園祭」で使われていたらしい。北九州市立いのちのたび博物館は「小倉祇園の資料としては一番古い」と話す。

見つかった太鼓は、小倉祇園太鼓保存振興会の常任理事で、新井硝子店（同市小倉北区）3代目の新井義則さん(69)＝同＝の自宅に昔からあったものだ。今の太鼓（直径45㌢、長さ60㌢）に比べると直径36㌢、長さ45㌢とやや小ぶり。古いので祭りで使ったことはなかった。

太鼓内部の墨書き。「安永九年 子四月吉日　大坂渡辺村 中町細工人 たいこ屋又兵衛」と読める＝新井義則さん提供

上1780年製を示す文字が内側に記されていた太鼓＝新井さん提供
下革を張り替えた後の太鼓と新井さん＝北九州市小倉北区

昨年末に福岡市の太鼓店に革の張り替えを頼んだところ、太鼓内部から安永9年（1780年）に大坂渡辺村（現・大阪市浪速区）の「たいこ屋又兵衛」が作り、安政7年（1860年）に「池田屋繁太郎」で革を張り替えた、との墨書きが見つかった。

渡辺村の歴史に詳しい大阪人権博物館の元学芸員、太田恭治さん(66)によると、渡辺村は皮革や太鼓づくりで有名で、九州を含む西日本の太鼓づくりを引き受けていた。

「太鼓屋又兵衛の5代目は今の北九州市出身の人だった。小倉祇園の太鼓も作っていたのだろう」と推測する。

小倉祇園は1618年に無病息災や町の繁栄を願って始まったとされる。太鼓はなかったが、1660年ごろから加わったとの文献もある。明治になって太鼓を中心とした祭りに変遷し、やがて山車の前と後ろに太鼓を据え、山車を引きながら打つ現在のスタイルが確立した。1958年に福岡県の無形民俗文化財に指定されている。

いのちのたび博物館によると、小倉祇園に関する一番古い展示物は1856年製の山車だった。博物館は「18世紀のものは市内でも確認されていなかった。一般の住宅で眠っていたのなら、他にもいろいろあるかもしれない」。

新井さんら保存振興会のメンバーは、小倉祇園太鼓の国の文化財指定を目指している。「こういった小倉祇園の歴史を裏付けるものがどんどん集まれば、指定に向けての弾みになるかも」と夢をふくらませる。

革を張り替えた太鼓はこの夏、子ども用太鼓として久しぶりに勇壮な音を響かせる。

（山根久美子）